

表1 佐伯湾赤潮プランクトン調査結果(R2.6.22)

採集地点	調査時間	水深 (m)	水温 (°C)	塩分 (PSU)	DO (mg/l)	シャットネラ sp.	カレニア ・ミキモイ	単位:細胞数/ml	
								ヘテロシグマ ・アカシオ	クロロデニウム ホリクリコイテス
6.JF鶴見ポイント前	9:50	0	***	***	***	0	0	225	0
		6	***	***	***	0	0	25	0
		8	***	***	***	0	0	0	0
		8.5	***	***	***	0	0	0	0
9.霞ヶ浦	10:30	0	***	***	***	0	0	54000	0
		3	***	***	***	0	0	250	0

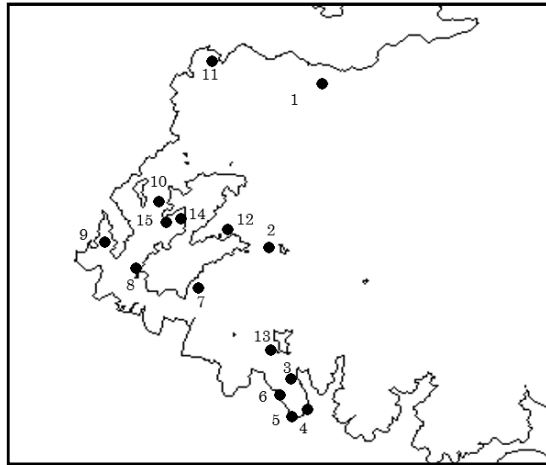


図. 調査定点図

参考: 赤潮注意・警戒密度(単位:細胞数/ml)

赤潮プランクトン	注意密度	警戒密度
シャットネラ spp.	10以上	100以上
ヘテロシグマ・アカシオ	5000以上	50000以上
カレニア(キムノデニウム)・ミキモイ	200以上	2000以上
クロロデニウム・ホリクリコイテス	30以上	300以上

* 警戒密度は漁業被害が想定される密度です。

* アワビ、ササエ等ではカレニア・ミキモイで100~200細胞/mlで斃死する可能性があります。

* マグロに関しては、赤潮注意・警戒密度に1/10を乗じた細胞密度とします。

連絡事項

有害プランクトンのヘテロシグマ・アカシオが確認されました。

ヘテロシグマ・アカシオは、霞ヶ浦 湾奥において警戒密度を超えており非常に危険な状態です。

パッチ状になった赤潮は潮流や風の影響で移動し、養殖、畜養中の魚介類に被害を及ぼすことがあります。魚介類の管理にはくれぐれもご注意ください。